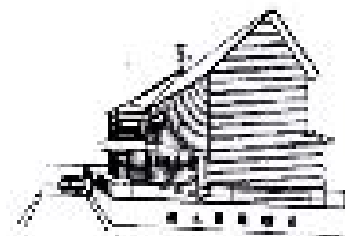


< 来週の聖書から > 「人がひとりでいるのは良くない。彼のために、ふさわしい助け手を造ろう」、これは来週の夕拝で取り上げる創世記2：18の御言葉です。現実には、私達は一人ではありませんし、どんなに孤独だと思っても、一人では生きていないのです。“それで人は、すべての家畜と、空の鳥と、野のすべての獣とに名をつけたが、人にはふさわしい助け手が見つからなかった(創世記2：20)”しかしまだ足りませんでした。“そのとき、人は言った。「これこそ、ついにわたしの骨の骨、わたしの肉の肉。男から取ったものだから、これを女と名づけよう」(創世記2：23)”と続きます。生物学では、雌雄がなぜあるのか、今もって説明されていませんが、これが、この世に性のある理由です。その時には理解できなかったでしょうが、いま神様の業を顧みますと、ユニセックスの世界なんてさぞつまらなかったと思います。世の中に男と女がいることは、そんな平板な世界ではなく、実に豊かな世界の原因にもなっています。神様は幸福と豊かさの基の一つとして男と女を作られました。これが前提です。しかし、善悪を知る人々は、正しいことを知る力を得ながら、世の中に性があるということを“不幸と悲しみ”の原因にもしてしまいました。身の回りを見ても、一つや二つ、神様に喜ばれないようなことが起こった現実を知っていると思います。次にイエス様の教えをみましょう。“一人で暮らすのは元々よいことではない”と仰っています。“だから、神が合わせられたものを、人は離してはならない(10：9)”とあるのです。パリサイ人たちは、結婚の問題を取り上げているようですが、これは例によって、論争の為の信仰論争のようなものでした。“人が妻をめぐって、結婚したのちに、その女に恥ずべきことのあるのを見て、好まなくなったら、離縁状を書いて彼女の手に渡し、家を去らせなければならない(申命記24：1)”という律法に対するイエスの答を見たかったです。結婚の神聖であることを持ってイエス様は答えにされました。“誰が見てもはっきり理解できるだけの離縁状を書かなければならない”とまず答えられます。勝手に書けばそれでよい、というのは“かたくな”なのである、とも10：5で解釈しておられます。ただ“離婚は良くない”と言うだけでは、力にならないことを、現代の社会も、教会もが示しているような現状にあります。イエス様は“あなた方はこの素晴らしい創造の業に従うために神様からの力に頼っているのですか”と教会に語りかけておられるのです。

週報

2009年 10月 18日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp